

## (2) 日間賀島

### ◇新プログラムで滞在型観光地を目指す

日間賀島では、島の自然を満喫できる体験学習プログラムの実践により大きな成果を上げてきたが、社会環境の変化や近年の観光客の減少に対応するため、全国に通用する日間賀島のブランド化創業事業への取り組みを始めた。

この取り組みは、島のあらゆる資源を観光資源にして「疲れる旅から元気になる旅」をテーマに滞在型観光地を創出し全国展開するもので、既存の漁業体験プログラムやキッズアドベンチャーに、新たに海のリラクゼーションプログラム、低カロリーでミネラル分豊富な健康料理、イルカの介在療法などを加え、団塊の世代とジュニア世代をターゲットに何泊もできる日間賀島を目指している。

### ア 漁業体験プログラム（期間 4月～10月）

漁村での生活を通して自然に触れ、漁師がインストラクターになって本格的な漁業体験をするもので、観光協会、漁業協同組合、漁業者（漁師）が一丸となって取り組むなど、若い世代を中心として交流人口の拡大に努めている。

「ようこそ日間賀島、自然体験ワールドへ」と題し、タコのかみどり、底引き網漁、キス網漁、干物づくり、漁船クルージング、民宿ホームステイなど 20 以上のプログラムがあり、22 年度は延べ約 15,000 人が体験した。



案内パンフレット

### イ キッズアドベンチャー

小学生を対象に夏休み期間中（平成 22 年度は 7 月 18 日～8 月 29 日）に行なわれるメニューである。アドベンチャーランド、シュノーケリング、いかだ作り、シーカヤック・ウミネコウォッチング、ハンドクラフトなどのほか、キャンプファイヤー、ナイトウォークといった夜間メニューもあり、22 年度は延べ約 5,500 人が体験した。

また、開催期間中の 7 月 24 日（土）～8 月 22 日（日）の間には、島内周遊無料バス「ぐるりーバス」が運行され、延べ約 12,500 人に利用された。



シーカヤック



ハンドクラフト

## ウ リラクゼーションプログラム



島の中で移りゆく季節・自然を感じるだけでなく、ビーチに設置された潮風リラクゼーション、ウッドデッキでのマッサージ、海水フローティング、ビーチ・ポール・ウォーキング、砂浴など、生命の源である海を利用した、心と体を癒してくれるプログラムが用意されている。

案内パンフレット

## エ 健康料理

漁師から始まった民宿や旅館では、伊勢湾、三河湾の多彩な魚介類を使って、どう料理をすれば美味しいのか、何が体に良いのかを知り尽くした漁師ならではの料理が受け継がれている。低コレステロールで、血液を浄化し、肝機能を高める働きもあるといわれるタコのように、魚介類は、もともと低カロリーでミネラルが豊富であり、魚介類をふんだんに使いながらも 1 人前 800kcal に抑えたコース料理などの開発が行われている。



## オ 人とイルカとのふれあい事業

イルカとの触れ合いを通して自閉症児らの生活支援を目指すもので、18 年度より実施されており、平成 19 年度には、一般の人に向けてのメンタルヘルス（心の健康）を増進するプログラムも実施された。自然の海を使った珍しい取り組みで、専門家の間では日間賀島という自然の中で集中的に取り組むことにより、効果の向上や受け入れ人数を増やすことができると期待されている。平成 22 年度には、延べ約 4,500 人がイルカとのふれあいを体験した。



イルカの掴まり方のレッスン



イルカとの触れ合い



西海水浴場清掃活動

### カ ひまかドルフィンキッズ

子供たちがイルカの世話のお手伝いや島内の清掃活動を通し、コミュニケーションの大切さ、自然を大事にする気持ちを養うことを目的とした活動をしている。

また、南知多ビーチランド（美浜町）に出向き、イルカの生態や飼育方法などの見学プログラムもある。

平成 22 年度は地元の約 60 人の子供が参加した。

### ◇島民自主パトロール隊

平成 19 年に『明るく、安全・快適なリゾートアイランド』をスローガンに島民の有志による自主パトロール隊（PATOROL HIMAKA）が結成された。

島内をパトロール車両や徒歩で巡回して、島民や観光客に防犯や交通事故防止をアピールしている。

パトロール活動を開始してから犯罪件数が減少するなど効果が表れている。



島民自主パトロール隊

### (3) 篠島

#### ◇「島弘法」巡り

篠島は古くから歴史の島として知られ、今も数多くの史跡、名勝が残っている。漁業が盛んな島であるが、明治の終わりごろ島の漁船に海難事故が相次ぎ、中には命を落とした人もいた。そこで遺族を中心とする島民の有志が集まり、犠牲者の霊を慰め、海上の安全と大漁を願って島内の海を見渡せる道沿いに八十八体の弘法様をつくったのが「山弘法」の始まりとされている。以来いつからか春の弘法命日の日には、島民がこぞってお弁当を持ち弘法巡りをするようになり、この日は学校なども休みとなって島民の手軽な春の行楽として定着していたが、昭和40年代の経済成長期に入ると次第に「山弘法参り」をする人も少なくなっていた。

そんな中、数年前より若手の町観光協会篠島支部会員のなかで「山弘法をもう一度見直してみてもどうか」との声が広がり、昨年、支部で事業化が承認され広報宣伝部の若手を中心におかみ会なども加わって取り組みが始められた。今回の復旧事業で「山弘法」の風習をもう一度見直し再整備することで、名称を「島弘法」と変えて新しい観光資源とし、また、海の見えるコースを歩いて回るということで、来島客だけでなく島民にも篠島の景観の美しさを感じてもらい、健康づくりにも役立ててもらえるもの、さらには、島民に島の文化を再認識してもらおうきっかけになりうるものと期待されている。

今後は「島弘法」の中心コースとなる棚橋～牛取～赤石地区をはじめとする島内全域の環境美化・整備などをすすめていくことで、子供たちにも島を愛する心の育成・郷土の誇りと感じてもらえるよう、また、「島弘法」が島の「宝」、「光」となるよう活動の輪を広げていくことが計画されている。



弘法様 (第9番)



幟旗と祠が整備された島弘法



弘法様の命日に行われたPR活動  
(あさり汁等の振る舞い)

### ◇篠島小学校の郷土学習

篠島小学校では、郷土を誇りに思う気持ちを育もう、自分たちで島のためにできることをしようと、児童が観光案内看板の作成や、地引き網漁の体験、郷土料理実習などに取り組んでいる。

観光案内看板は、6年生児童が5班に分かれ、縦60cm、横90cmの板を使って18年6月から手作りで制作したもので、「清正の枕石」や「万葉歌碑公園」などの史跡や名所に観光協会員らと協力しながら、絵と説明の書かれた看板を設置した。



万葉歌碑公園の看板

地引き網漁は、篠島でかつて盛んだった伝統漁法を体験し当時のことを学ぼうと20年ほど前から行なわれているもので、全校児童約110人が挑戦。事前に沖に仕掛けられた網を児童が二手に分かれ浜から引き寄せ、網の中にはキス、カレイ、アナゴ、タコ、小さなフグなどたくさんの獲物がピチピチと跳ねていた。

郷土料理実習は、地域素材の種類や生態、漁法を学び調理実習をすることで理解を深めることを目的に、平成13年度から始まり、近年は「郷土料理を学ぶ会」として5年生が7月にタイで、6年生は11月にトラフグで実習を行なっている。6年生のフグの実習では、島内のホテルでフグのさばき方、毒のある部分、食べられる部分などを学んだ後、学校に戻り調理師さんの指導でフグしゃぶ、フグ鍋、雑炊づくりに挑戦した。



地引き網漁体験



フグの調理実習

### ◇観光ガイド

平成20年7月に宿のおかみなどが中心となり、観光客と一緒にウォーキングしながら無料で島の名所を案内する観光ガイドが発足した。初級(90分コース)と上級(180分コース)の2コースがあり、篠島の歴史や自然の話をして観光客に篠島の魅力を広く伝えている。



観光パンフレット

#### ◇特産宣伝キャラクター「しらっぴー」

篠島産しらすのブランド化を目指し、平成 20 年に水産物加工業協同組合が中心となって、しらす日本一をPRするしらすマスコットキャラクター「しらっぴー」が作成された。

その後、平成 22 年度に着ぐるみやのぼり旗も作成され島内外の祭事イベントに参加し、愛くるしい姿でお祭りを盛り上げている。観光イベントにおいては「しらす」と「篠島」のPR活動を行っている。



「しらっぴー」の着ぐるみとのぼり旗



名鉄海上観光船乗り場前

#### ◇名古屋城築城の史跡

篠島は約 400 年前に加藤清正が名古屋城築城の際に石を求めた場所である。近年の調査で石を割る時に掘られた矢穴の残った残石が 43 箇所 197 個確認されている。

しかし、残石の多くは海岸線に存在し、見学には安全上問題があった。そのため、より多くの観光客の方々に安全に見学ができるように名鉄海上観光船乗り場前の広場に矢穴の残った残石と案内看板を展示した。

島内部にある採石地跡には工事用足場で見学路を確保し安全に見学していただくこともできる。

島の歴史を再認識してもらおうきっかけになりうるものと期待されている。

【作成】愛知県地域振興部地域政策課  
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052)961-6096(ダイヤルイン)  
URL <http://www.pref.aichi.jp/0000029829.html>